



●経営コンサルタント研究部会●

第1回のあつまりを4月5日(土)14~17時、八丁堀・東京都勤労福祉会館で開きました。出席者は11名(荒木陸彦・澁田・福島憲治・福島康人・伯野・樋爪・野田正弘・岡田隆雄・小田部・柴田祐作・上田)各自の自己紹介のあと、これからの運営について語り合う。

●日本における社会システム 分析研究部会●

第6回部会 55.4.26(土)14:00~17:00, 社会環境システム研究所において開催, 参会者13名. 議題: タウンミーティングの実践とその成果(川崎市におけるケーススタディ) 小岩 明氏.

かつて小岩氏によりLENS (Living Effectively in the New Society) Method の紹介があったが, それを川崎市においてタウンミーティングとして実践したのでその成果の発表と, 問題解決の手段としての適否の検討を行なった. LENS Method についてはKJ法と似ているが, やり方によってはKJ法の弱点をカバーできるところもあり, 示唆に富む資料が得られた.

第7回部会 55.5.31(土)日本能率協会会議室で開催. 議題: 江戸と東京——その都市計画を社会システムの見地から分析する. 工業技術院機械技術研究所 島村昭治氏, 参会者12名.

都市計画についてはとかくハード面からのアプローチが多く, しかも古来外国におけるそれとのナアロジーで考えられてきたが, 今回のアプローチは, 都市計画をソフトな面, しかも独特の日本的な風土をもとにアナリスした点きわめてユニークなものがあった. さらに筑波の実験都市(新治郡桜村)としてのアナリスも含め, 都市をみる視点に示唆を与えるものが多かった.

(主査 小島光造)

●実施理論研究部会●

●4月例会 4月19日(土), 10:30~15:30, 東京工業大学(大岡山キャンパス), 出席者23名.

Schultz & Slevin (1975) の第14章, Strategies for Implementing Systems Studies を野尻委員の担

当により, また Doktor, Schultz & Slevin (1979) の第3章, A Practitioner-Oriented Framework for Implementation を加藤(晴)委員の担当により, それぞれ講読を行なった.

なお, 第4回分科会を, 4月12日(土)13:30~16:30, 東京工業大学(長津田キャンパス)にて行ない, User Influence and the Success of MIS Projects: A Contingency Approach (Hum. Relat. 1977) の文献講読(加藤(敏)委員担当)および討論を行なった. さらに各委員が, 実施理論におけるそれぞれの関心領域を挙げ, 今後その領域についての報告を行なうこととした.

●5月例会 5月17日(土), 13:30~17:00, 東京工業大学(大岡山キャンパス), 出席者21名.

Schultz & Slevin (1975) の第15章, Ethical and Value Dilemmas in Implementation を川瀬委員の担当により, また Doktor et al (1979) の第4章, An Empirical Investigation of Implementation as a Change Process を中川委員の担当により, それぞれ講読会を行なった. 前者の論文は, OR/MS の専門家といった変革援助者と顧客との間で生じる価値ないし倫理問題を整理して議論している. 後者の論文は, OR/MS の実施について, フィールド・スタディにもとづく変革過程の概念的モデルを提示している.

なお, 第5回分科会を, 5月10日(土)13:30~16:30, 東京工業大学(長津田キャンパス)にて行なった. プロジェクト・マネジメントに関する文献 (IEEE, Vol. E M-26, No. 3, 1979) の講読を, 西川委員および黨委員の担当で行ない, マトリックス組織などにつき, 討論を行なった.

●創造性開発の数学モデルと CBD 研究部会報告●

創造と想像は同音異義ではあるが, 人は想像することで創造が可能となる. 記号集合の星積の要素と意味空間の要素が対として存在(意味写像)し, それらが合成可能のとき, 人は文字をみてある事柄を想像しうる. 異なる記号列, 異なる写像, 異なる合成のしかたにより新しい事柄を心に画くことができる. 音としての記号列が同じでも文字としての記号列が異なり, 異なる意味をもつとき, 人は思わぬひらめきをもつことがある. つまらぬ語呂合わせから発想の展開を得ることもある.

いずれにしても想像は重要な人間行動の1つである.

そこで第2回研究会は次のように行なった.

(講演) 早稲田大学システム科学研究所 松田正一教授

「イメージと創造」

(参加人員数) 17名 (とき) 5月15日(木)
(ところ) 霞ヶ関ビル30階 (司会) 東洋信託銀行池
沢調査役

第3回研究会 この会の終局の目的はデザイン用のソフトウエア開発である。そのためには人間の持つ創造性が機械によって開発されるメカニズムを明らかにしなくてはならない。さらにそのためには創造性過程の解明を必要とする。常識的イメージを画く個人からは余り創造物は期待できない。それが期待できるのは夢の中か、一時的狂気となるか、異質の人との交流つまりブレインストーミングをするかである。それらの過程が把握できれば機械によって強制的に常識を打破することが可能となる。知識データベースの探索法を逆にするのもその1つであろう。事象の常識をうるためのABC分析を逆用すれば非常識的発想(XYZ発想とも言えるか)ができる。その意味で新しい観点からABC分析について下記のように第3回研究会を行なった。

(講演) 東京理科大学 牧野都治教授「待行列理論からみたABC分析」 (とき) 6月19日 (ところ) 22
森ビル (参加人員) 8名 (司会) 電々公社宮崎幹事
なお、9月以降の予定は次のとおりである。

9月18日頃 ニュージャージ州立大学院大学ルタガース
大学教授石川 昭「創造性について」 10月16日 東京
理科大学田崎教授「合意形成とファジー理論」 11月20
日 東京理科大学溝口専任講師「自然言語解析と知識デ

「データベース」

●交通問題研究会●

●第2回 5月21日(水) 18:00~20:00, 場所: 東洋経
済ビル, 出席者15名。

越教授の論文「トラック輸送の社会的費用」(エコノ
ミスト54年10月16日)の輪読を行なった。日本と欧米各
国の運輸統計を比較して、日本では人流との相対関係で
トラック輸送の割合が大きい。これはトラック輸送が社
会的費用を外部化したうえ、優遇政策を受けているため
だと結論し、物流体系変革の必要性を訴えている。しか
し外国の統計と比較するに当っては、統計のとり方・産
業構造・生産形態の差異を考慮しないとイケない、特に
物流においては然りだとの意見が多かった。

●第3回 6月21日(水) 18:00~20:00, 場所: 東洋経
済ビル, 出席者17名 テーマ: 内航海運について 講
師: 日通総研 忍田和良氏

内航海運の現状について、需要の時系列動向・品目特
性・地域特性、供給の過当競争・過剰船腹という問題等
の説明があった。鉄鋼・砂利・セメント等大宗荷物の専
用船化、雑貨類のコンテナ船化が今後の課題とのこと、
さらにカーフェリーはエネルギー面で効率が悪く、コン
テナ船を中心に据えて港荷役の合理化・技術開発を進
め、海上雑貨輸送システムとして構築していくのが望ま
しい。また物流は規制を強めるよりも市場機構に委ね
たほうが結局うまくゆくのではないかと結論された。

編集後記▶12回にわたって連載していただいた伏見教授
の企業会計基礎講座は、好評のうち今回で終了。お忙し
いなか毎月書いていただいたこと深く感謝いたします。

▶体育の日にもなで「スポーツのOR-II」を特集。
前編集委員会での企画が好評、再度鳩山氏に企画して
いただきました。▶今回の目玉、川上哲治氏とのインタビ
ューは、同氏の絶大なるご好意と鳩山氏の尽力により実
現。大の巨人ファンの大山、鳩山氏氏は巨人の実情を訪

ねることしきり。また録音、筆記などを手伝ってもら
った事務局平井嬢も熱烈な巨人および川上氏のファンと
のこと、仕事も忘れそうになるほど真剣に川上氏の話に聞
き入っていました。▶川上氏のほとぼりしりである実践をふ
まえた含蓄のあるお話、それに巷間のスポーツ紙ならと
びつきそうなオフレコ情報などを交えた迫真にせまるも
のでしたが、そういう雰囲気もさることながら話題のす
べてを記事で伝えられないのが残念です。(M)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年10月号 第25巻 (新シリーズ第5巻) 10号 通巻238号

代表者 松田 武彦
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 繁 郎
発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円 (郵送料含) 年間予約購読料 7200円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社 (563-2241)、明報社 (571-2548) へ